

十月のテーマ

疾病信号



え・城谷俊也

夜ごとの咳が 教えてくれたこと

近年、心身医学の発展により、心と身体が相互に深く影響

し合っていることが明らかにされてきました。日頃の心のありようが健康につながることは、誰もが知る常識となり、心のケアやストレスとの向き合い方も様々な形で取り上げられています。

しかし、いくらストレスを解消しても、根本原因であるストレスの元を解消しない限り、本当の解決にはなりません。

以下に紹介するのは、三十代のSさんの体験です。

父親より「会社に戻ってきてほしい」と頼まれたSさん。軽い気持ちで「わかった」と返事をし、父が経営する会社に戻りました。

久しぶりの実家、父の会社で思い出に浸っていると、昔から顔馴染みの社員が、次々に「お久しぶりです。これからよろしくお願います」と声をかけてきました。

出勤初日、Sさんは、朝礼で社長挨拶を聞き、自分が何のために帰ってきたのかを理解しました。

「将来的に、息子のSに会社を

譲ろうと思います。皆さん、よろしくお願ひします」

Sさんは後を継ぐために戻ったつもりはありません。「親父は何を勝手なことを言ってるんだ」と思いましたが、他の社員が笑顔で拍手をする姿を見ると、ここで「嫌だ」とは言えませんでした。

それから苦勞の始まりでした。周囲は後継者として自分に接してきます。しかし、Sさんの心は納得していません。葛藤が続く中、夜になると咳が出るようになりました。その咳が苦しくて、よく眠れなくなりました。

日に日に元気がなくなる息子の様子を心配した母親から、ある時、倫理法人会の話を知りました。特に興味はありませんでしたが、母親の思いを汲んで、モーニングセミナーに参加しました。

その時の内容が『万人幸福の葉』第七条「疾病信号」だったので、

話を聞き、自分の咳は何を教えられているのかを聞いてみたいと思つたSさんは、朝食会の中で、講師に質問をしてみました。

すると、「心に思いを溜め込んで苦しいですね。本当はその思いを出したいけれど、出せずにいることが身体に現れているんですね。素直にお父様と話をされたらどうですか」と言われ、「思いを打ち明けても良いのか」と思つた瞬間、涙と共に心が軽くなりました。

家に帰り、父親と向き合い、自分の思いを伝えると「そんなに思い詰めていたんだな。悪かった。お前の好きにすればいい」と言われました。その言葉を聞き、Sさんは改めて父親の会社を継ぐことを決意しました。すると、不思議なことに、その夜から咳をすることがなくなつたのです。

その後Sさんは、倫理法人会に入会し、純粹倫理を学ぶようになりました。ストレスを一時紛らわせたとしても、ストレスの元を解消しない限り、Sさんの苦しみは様々な形で続いていたかもしれせん。父親とわかりあえたことで、ストレスが解消されただけでなく、後継者として活躍するSさんの今の姿があるといえるでしょう。